

名前（ふりがな） 本多 正彦（ほんだ まさひこ）

活動地域：愛媛県伊予市双海町 支援可能な地域：全国どこでも可能

現在の所属（役職）

伊予市観光協会

## アドバイザー可能な分野

移住・定住促進

観光振興・交流事業

地域人材の育成

## 地域での活動

2013年、伊予市地域おこし協力隊として双海町翠地区に移住。

元々、双海町翠地区への移住を希望していたが当時は相談窓口も受け入れ体制もなく、住まいを借りることも難しかったのですが、自分と同様（いわゆる田舎で子育てしたい）のニーズがあることは感じていたので、協力隊活動としてその体制整備に取り組みました。

機を同じくして、少子化の著しいこの地域でもこれからは移住者の受け入れをしていく必要があるのではという動きが起こり始めており、それに取り組む地域団体「まちづくり学校 双海人（ふたみんちゅ）」の用夢員（事務局）となり、移住交流プロジェクトのリード&サポートをしてきました。

移住者受け入れの実績がほとんどなかった地域だったので、空き家調査、情報発信、見学・問い合わせの対応など活動は多岐に渡りましたが、もっとも重視したのは地元の方々との合意形成や仲間となって応援支援してくれる受け入れ体制づくりでした。双海町の移住支援活動の特徴は、何とかしたいと思う地域の方々による民間主導でスタートしているので、自分たちの事として広げていきたいという思いからです。「市役所がやっていること」ではなく、お互い頼り頼られの関係でつくっていく動きにしたかったのです。

そこに数の実績を求めなかったために、協力隊期間中の成果としての移住者数は多くありませんが、地域への多大なる良い影響を与えてくれ、かつ地域の文化やコミュニティへの理解・尊重が強いため、地域へもフィットした人が来て来ています。きっかけが少子化から学校を守ろうということだったので、子育て世代の移住者が多いのですが、並行して実施している校区外通学の効果も相まって、私が着任した2013年春に全校児童15人だった翠小学校は、2016年春、28人でスタートしました。地域のシンボルでもある翠小学

校を軸に進める移住交流の活動は、振り返ってみると数の成果も少し出てきていました。

民間主導による移住促進の波は、自治体も呼び込む結果となり、2015年度より、市も移住支援に取り組む団体へのバックアップを策定し始めました。「移住」に関しては先進地とは言い難い愛媛県ではありますが、愛媛ならではのカラーを大事に、地域の方々の目線で取り組んでいます。

#### 自己 PR 得意分野やアドバイザーの抱負

地域に入り仲間をつくり活動につなげていくために、目先の成果より、まずは楽しみながらしっかりとコミュニケーションをとっていくことの大事さ、地域の方々との合意形成をしていくことの必要性を伝えたいと思います。

地域の魅力を伝えるためにまず自分が知ることを学ぶことと、外向きには自身が地域の顔となっていることの大事さを伝えたいと思います。

自身が移住希望者だった経験と、今では地元の一員となった立場・意識から、移住を望む方と受け入れる地域双方の思いがよくわかり、間に立つクッションの立場として、移住者、地域、そして他地域で移住支援に取り組む方々と情報交換しアドバイスできます。

まだまだ決して多いとは言えない子育て家族の移住に関するノウハウや注意点をアドバイスできます。

空き家を活用しての受け入れを行っているので、改修や活用アイデアの提供ができます。